

## ・青森県知事賞

### じいちゃんのとんぼと雷

藤坂小学校（十和田市）

五年 附 田 紗 奈

「紗奈！昨日じいちゃんのとんぼさ雷落ちたぞ。見に行くべ。」  
二〇二〇年、七月十九日の夜中から二十日の未明にかけて、激しい風雨と落雷が続いた。学校から帰ると、じいちゃんから電話があったことをお父さんから聞いた。お母さんの車に乗り、家族みんなで高清水にあるじいちゃんのとんぼへ向かった。到着した瞬間、ここに雷が落ちたのだとすぐに分かった。直径十五メートルほどの大きな黒っぽい円がとんぼの真ん中にできていたのだ。お父さんもお母さんも、ミステリーサークルみたいだとか、暗くなる前に早く写真を撮ろうだとか、大さわぎしていた。弟もそこを走り回っていた。私は、このお米がどうなるのだろうかと心配になった。

日が経つごとに稲はどんどん生長し、黒い部分もうすくなってきた。実が入らないだろうとみんなが思っていたけれど、一生けんめい育てていたら、穂に実が入っていた。あの時落ちた雷がうそみたいに稲は元気に育った。

稲刈りの時期。実がすっかり入っていることを確認したじいちゃん、コンバインで一気に刈った。家族からは、雷が落ちたところだけ別に味わってみたかったと言われていたが、じいちゃん

にはそんな事は関係ないみたいだった。農協に運ばれていたら家で食べる用の米になっていたみたいだが、カントリーエレベーターに運ばれたおよそ二〇〇キロの雷米は「まっしぐら」の一部として全国に売りに出され、誰かの口に入ったらしい。何か特別な味になっていれば面白いと思った。

今年、私は社会科で米作りについて勉強している。実際に田植えをし、これから稲刈り体験もある。手作業は本当に大変で、機械化されて楽になったというものの、じいちゃんは水の管理が大変なのだという。雷も、その時に発見したらしい。高齢化が進んだり、米の消費量が減ったりする中、毎年じいちゃんはおいしいお米を作っている。私も、春には苗代や田植えの手伝いをしていく。季節の行事みたいで作業はとても楽しい。私が手伝うことを喜んでくれるし、最近「仕事のたしになる。」と、わりと頼りにされている。こうやって苦労してできたお米を「いただきます。」「ごちそうさま。」とみんなが喜んで食べてくれたら、すごく嬉しい気持ちになる。

今年も、盆はじいちゃんの家で家族が集まって一緒にご飯を食べた。ばあちゃんが買ってきたおすしも、誰かが育てたお米で、これもすごくおいしかった。そして雷が落ちた時の写真を囲んで、みんなで去年と全く同じ話をして笑った。この作文を書くための取材も楽しそうに答えてくれた。私は、じいちゃんもばあちゃんも大好きで、農作業も大好きだ。これからも、たしになる手伝いをして、おいしい米や野菜を作りたいと思っている。

